
むしゃくしゃしたから森の中から成り上がってみたよ

ナナツボシ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

むしゃくしゃしたから森の中から成り上がってみたよ

【Nコード】

N8825Y

【作者名】

ナナツボシ

【あらすじ】

テンプレらしきシチュエーションで死に、目を覚ませばそこは森の中。いわゆる異世界迷い込みらしいが、元来フリーダムな正確な主人公は明るくポジティブに異世界を生きるッ！

これは前に書いてた「森の中」の改訂版だよ。

含まれるよ。

(> <) < 最強、ハーレム、ご都合主義が

(>

＜（＜地雷が嫌ならお帰りなさいな。

死ぬからのゝ生きるッッ！（前書き）

取り敢えず全力でテンプレな導入

死ぬからのゝ生きるッッ！

とりあえず自己紹介をしましょうか。まず名前は山崎と言います。下の名前は半太^{ハンタ}と言いますが、小さい頃から「ヤマザキパン」と言われ続けたのが嫌ですから、山崎と覚えて欲しいです。そもそも半太と山崎でしたら、山崎の方が格好良いかなど。なんとなくそう思っています。

年は三十路も半ばなので、興味ないでしょうか？だから言いません。体型は身長が高いですが、痩せ形ですのでなんかマッチ棒みたいで好きじゃありません。

恋人は適当にいましたが、セックスの楽しいうちはいいのですが、将来だ結婚だと重たい話になると面倒になりました、30歳を機に恋人はもたず、風俗を極める事に心血を注ぎました。あはは。

池袋のヘルス「ヌクドナルド」のまどか嬢は、一年通った記念にまさかの本番をプレゼントしてくれたのが、ささやかであるが私の自慢であるでしょう。

今では店構えを見ただけで、その店が当りかハズレかは判るほど風俗の達人となれました。自慢にならないと思いますが、まあ、いいじゃないませんか。道を極める事は無駄になりませんよ。たとえ閨でしか発揮出来ないとしても。

仕事は中堅ゼネコンにいました。一応、一級建築士を持っていますが、独立出来るほど甘くはありません。ほら、世の中不況不況と騒がしいでしょう？独立したってたかが知れているんですよ。

だから適度に刺激的で、それでいて起伏の無い平凡な生活つても
のを私は求めているのですよ、私は。

うん、違いますね……

やつでした……と訂正します。

何故かと言いますと、私は死んでしまったのです。それはもうア
ッサリとゴリンジューって訳です。

まあ説明しましょうか。ってロボットアニメみたいですが、言わ
なきゃ始まりませんから、お怒りは勘弁して欲しいですね。

そう、私はいつものように目を覚まし、身仕度を経て担当現場で
あるある官公庁の新庁舎に向いました。うん、よく晴れた爽やかな
朝でしたね。

早朝だから渋滞は皆無です。快適な国道を赤茶けた電波塔を背に
現場に向かいました。このトウキョーのランドマークは無言でそび
え立っています。何となく敬礼したくなりませんか？

やがて現場につき、朝の申し送りをします。最早ルーティン化し
た儀式ですけどね。そうして内装を頼んでいた業者の担当者に会い
に3階を目指し、私は足場を昇りました。パイプで組まれた櫓みた
いな物ですね。

「山崎さん！危ない！」

と、いう叫び声を聞き、思わず上を見上げましたら、ハンマーが私を目がけ落ちてきました……そして暗転。痛いとか一切なしですよ？

どこかで「ごめんなさい、間違えて殺しました。お詫びに別世界で新しい命を手配します。あ、多少身体能力や判断力は上乘せします。では、頑張ってください。サヨウナラ」という女性の声が聞こえましたが、そのまま意識が飛びました。そもそも何がごめんなさいで、何が頑張ってるのですか？と問い詰めたいですね。あまりに不躰過ぎます。

で、気が付いたら森のなかと言う。

全裸で。

お母さん、寒いです。

いや、お母さんいませんが……。

なるほどなるほど、頑張る以前に説明が欲しい私でした。フリー
ダムにさらされた私のお稲荷さんが虚しかったですね。

錯乱からのゝ人外ッ（前書き）

短くてごめんなさい。

錯乱からのゝ人外ッ

ほんとにほんとにほんとにラインだぁ

近過ぎちゃってどうしよう!?

可愛くってどうしよう!?

異世界サファリパ〜〜クッ!

はぁ……私、ただいま絶賛現実逃避中です。

いやね?とりあえず裸ですし、人もいません。

鳥やなにかの獣の鳴き声はしますが……普通はパニックを起こしませんか?

はい、かくいう私も恥ずかしながら、発狂寸前……いや、発狂しましたよ。

そうですね?三時間は叫んだあたりですか?だんだん私は頭にきましたよ。

だから、そこらの大木に頭を打ち付けたわけです。

それはもう、どこかの汎用人型決戦兵器が暴走したかのようにガンガンと。当たり前かと思いませんか？

チンチン丸出しで何やってるんでしょうね。

ガンガン……はぁ……

あのですね……向こう側に頭が突き抜けましたよ。わかります？私の頭のカタチの穴が開いたのです。ぶっとい大木にデスヨ。

ポカーンですよ。

んなわけないと、今度は別の大木にアックスボンバーをかましたわけです。アックスボンバー、つまりホーガンが猪木を失神させたアレです。知りませんか？そんなお子様はお父さんに聞いて下さい。

そしたらバキィー！！って。あ、グラップラーな最強息子じゃないですよ？

まあ私の戯れに放ったアックスボンバーで、一抱えで足りない位の大木が倒れました。いや、木っ端微塵です。

はぁ……理解しました。

死に際に聞いた変な女らしき声が言ってた”身体能力や判断力”

ってこれですね。しかしちょっと所のレベルじゃないですって……
判断力はよくわかりませんが、取り敢えず私はピクルやオーガミ
たいな人外らしいです。

まあ、冷静に考えたらここは気温は温暖ですし、身体能力は人外
です。狩りでもしたら生きては行けそうですね。とりあえず、色々
考えてみますか……

多分この体は滅多な事じゃ死ななそうですね。マラリアとか病気
は分からないですが、多分大丈夫じゃないですかねえ……。

目標はとりあえず人外パワーで木を斬り倒し、建築士の知識で家
を建てます。だって裸ですし……寝床はいるでしょう。

後は水場の確保と、食料の確保は欠かせません。

いやあ、私の超ポジティブな性格はサバイバル向きですね。

そこは親に感謝です。ありがとう、父さん母さん！！はっはっは
……いや、いませんけどね両親。え？知りませんよ？孤児院育ちで
すから。だから図太いんです。だって、遠慮してたらオカズ無くな
りますし、学校いけば貧乏貧乏言われてハブにされますしね？図太
くなきゃ生きてはいけませんね。まあいいでしょう、これは。

さあ、動きますか……

時は金なりと言いますからね。

挑戦からのバトル

取り敢えず水場から確保しますか。人間生きてくには、必ず水は必要ですからね？食物より先に水は必須ですよ？と、今は鬱蒼とした森な訳ですが、取り敢えず麓へと、思われる方向を目指して出発です！全裸で！川探すのです！

ぶらーん　ぺち

ぶらーん　ぺち

こちらに来て、若干サイズアップした気がする我が愚息ですが、歩くたびに内股を叩くんです。うふん。この解放感　カ・イ・カ・ンです

多分、しばらく本来の目的である交尾には使えない、完全なる小便専用管と化してますね、我が愚息は。

だが、やはり大事にしてやりたいですよ。いつ何時、誰の快樂の泉にフェードインするかわかりませんからね？と言うか我が亀仙人のツルツル頭が、さっきから若干痛いんです。

とはいえ、これといって策も無いです。なので、取り敢えずその辺の植物のつるを腰ヒモとし、柔らかな葉っぱを適度に垂らし、原始的なパンツを作成。はじめ人間ギャー……ま、いいです。とにかく

く亀仙人は守られたのですから。

亀仙人も嬉しそうですよ。

とか言っていましたら、日もてっぺん辺りから傾いて来たので、水場探しに戻ります。と言うか喉がカラカラなんですよ。腹も減りましたしね。

だいたいですよ？夜になったらどんなヤバイ獣がでるか分からないですもん。あ、これフラグですか？うるさいです。

しかしツイてますね。時折見かける桃のような（色は黄色）果物を見かけ食べました。毒とか怖くないのか？いえ、気が付いたら食っていました。食べた後にあつ毒！？と思いましたけど遅いですよ。まあ結果オーライですか？私は渴いた喉を潤しながら、とにかく歩く、歩く。

そんなこんなで2時間も歩いたでしょうか？木がまばらになり、林くらの間隔になってきた辺りで、水が流れるような音がツツ！……！！

やりました！男、山崎！とうとう川を発見しま………おおっ！？私の人外アンテナが反応しましたよ旦那！

川のほとりには、水を飲む鹿のような動物がいました。

キタキタキタキタあ！

ワシ、あいつの命と^{タマ}つちやる！！失礼、取り乱しました。

だって肉は食料になるだろうし、皮は服に出来ます。衣食住の衣・食を一気にゲットできますよ？ふっふっふ……

ただ、問題がひとつ。

ぬるい現代日本人である私は、生き物を殺す勇気が正直無いです。多分、やっつけたら血がドバドバ出たり、変な液体飛び出し首が有り得ない方向に曲がったりするでしょう？

オエッ……想像しただけで、かなりグロいのですけど……

しかもアイツ、体高3メートルくらいありますし、ものっそい角あります。

刺されたら痛そう、ってか死ぬるでしょう？いくら身体能力チートだとはいえ、刺されたらヤバイに決まっています……

ん？ こっち見て……ますか？

鹿っぽいのが、首だけこっちむけて、「ん？」みたいに见てますね……あらやだ、超可愛いんですが。

ですが次の瞬間、彼の目が真っ赤になり、突進してきやがりました！！

ヤバイヤバイヤバイ！あれ、なんだ！？いや、そうです。話せばわかりますよ！落ち着け鹿！さぞかし名のある鹿とお見受けしたが、なぜそう荒ぶるのか！違う！あれ？私は結構余裕ある？いいから
D A M A R E 私の頭。

鹿タンと私の距離は約10メートル

うわあああああ！！

心臓が握り潰されるような恐怖のなか、私は手当たり次第その辺の石を投げつけます。目をつぶり、無我夢中で。まるで駄々っ子の攻撃ですね？「うわーん、こっちくるなー」的な？

七つ目くらい投げた辺りで、「ボグウー！」と激しい音がして、静かになりました……。

おそろおそろ目をあけたら、鹿っぱいのが倒れてました！

近寄ってみるとピクピクと痙攣して、舌がびろーんと出ている、頭がパーン！ってなっていました……。

うわあ…小石が弾丸並みの威力って……正直ヒキませんか？

ま、取り敢えず……

シカとっただとおお!!!

故郷の父さん母さん

貴方の息子は立派に童貞（殺しの）捨てましたよ！だから親ないけど（しつこい）

はぁ……だがまたも問題発生です……解体作業のがグロいのでは無いでしょうか？

そして私は途方にくれた。

数分ほどですけどね！

罪悪感感しても腹膨れないですもん！

と、ポジティブ全開して、解体作業はじめましょうか。

私は刃物が無いので、河原のデカイ石にさらにデカイ石をぶつけて叩き割り、刃物っぽいのをいくつか拾い、鹿のそばへ。

ふっつと深呼吸

ズビュ ヌチュ ズビビビビ……

（自主規制中）

はぁ、返り血で身体中が真っ赤です……

おかげさまで、大量のシカ生肉と、布団一枚くらいの大きさの皮をゲットしました！！

さっきの石でなめして、川で洗って乾かす。ウホッいい革です！

私の中に充実感が溢れ、取り敢えず人外ライフの入り口には立てたかな？そう感じた昼下りでした。

充実からの労働ッ

やあ、山崎です。シ力を仕留め有頂天です。取り敢えず食事を確保し、調理の為に乾いた枝を沢山集めました。

それらを組み上げ、焚き火の準備をし、チート身体能力を発揮させ火をつけました。板に枝で摩擦をぐるぐるってね？ああ、数秒とか笑えませんか？むしろ加減間違うと穴が開くんですよ。これだから人外は……と言う自虐ギャグをかましてみても虚しい。

火がおきた所で木を裂いて作った串に肉をさして焼くわけですが、お腹が空きすぎて生で行きたい衝動に！それやったら私の人間と言う枠が完全に壊れそうなので我慢しました。

あ、肉は焚き火がオキ火になってから焼きました。流石に焦げたら美味しくないですから。

お腹一杯になり、川の水をガブガブ飲みましたら、ようやく心地がつかしました。

柔らかい土のうえに寝転び、少し昼寝。緩やかな風がとても気持ちがいいです。

日本じゃなかなかこんな時間は取れませんから、なんか満たされた気持ちがありますね。大自然サイコー！鳥の声が今は心地がいいです。

お腹一杯になりましたら突如ムラムラしてきたので、新宿は歌舞伎町のピンサロ、「花マン開」のみゆきちゃんの、毛の無い綺麗な桜貝を思い出しながらの手淫を一つ……。

なんか、解放感がタマラナイです！。多分この快感は初めてかもしれない。よく裸のオツキアイだけのお姉さんと、野外で盛った事があります。と言うか所謂アオカンなんて、そんな珍しくないじゃないですか。

だがしかし、こんな大自然で発電する紳士は中々いないでしょう？ヤバいです。癖になります。

……ふう。

やあ、失礼失礼。つい賢者になってしまいました。メンゴメンゴ。

気を取り直し、今度は住居に取り掛かりましょうか。どうも見たところ近隣に集落らしき物はなさそうですし、彷徨っても深みにハマるでしょう？常識的に考えて。だから取り敢えずは拠点って事です。

取り敢えず、川から50メートルくらいの場所の川から少し高い場所に、半径25メートル位の広場を作ります。流石に見通し悪い

と怖いですから。

中心には、樹齢5000年は下らないような、大木と言うには憚れる超巨大なブナの木があります。と言うかこの木は切ったりしたら何か祟りでもありそうな、そんな雰囲気がありますね。

だからその周りの木を次々と切り株ごと引っ込抜き、広場を作ります。もう私の身体はマシンですね。サクサク抜けますもの。と言うか、この能力を自覚してから一回も全力出してないんですよ？怖いですよなんか……。

まあそれはいいとして、次は蔦と固い枝で縄ばしごを作り、ブナの大量に枝分かれしてる場所に据えました。

後は手当たり次第引っ込抜いた木を手刀で乱暴に加工し、ブナにツリーハウスを拵えました。ツリーハウスは男の浪漫ですから。秘密基地的な興奮がたまりませんな。

そんなこんなで完成しました。まあ10畳ワンルームって感じですかね？中々快適そうです。このブナの木デカイですからね。これでも遠慮したんですよ。ごめんね？カーサン。ん？いやなんか寂しいから、ブナの木に”母さんの木”って名前つけました。だからカーサンなんです。

これで雨露は防げます。まあ建築士が作ったにしては粗末なもんですが……贅沢は言えません。

後は山火事でも起こしたら泣けるので、河原から人の頭程度の大

きさの石を集め、寸胴三つは置きそうな「コ」の字型の釜戸を作り、河原の泥で釜戸の隙間を埋めた。料理は必ずしますからね。

まあまあ良い出来と自画自賛してみます。道具が無いのに立派でしょう？

うん、虚しいですね。うるさいです。

トイレはあれなんで、大便是川で、小便は縄張り主張の為に広場を囲むように立ちしょんする事にしました。弱い獣なら防げないかなと言う希望的観測ですけどね？

取り敢えずここまで済んだ訳ですが、かなりの労働でしたが、チート身体能力のおかげさまかまったく疲れてないのが気持ち悪いですね。良いことだとは思いますが。だけど中々馴れませんよ。未だ異世界って半信半疑ですもん。でも、もしかしたら東南アジアのジャングルかもしれませんからね？だからまだ確信は出来ません。

そんなこんなしていたら、完全に夜になったので自慢のツリーハウスで就寝です。

はあ……健康的な生活ってやつですね。

明日も頑張ろうっと。

ああ、腹が立つくらいに星が綺麗です……。

驚愕からの拾い物ッ（前書き）

下品あります

驚愕からの拾い物ッ

やあ、山崎だよ。今、窓から差し込む爽やかな朝日で目覚めた所さ。異世界らしき場所に放り出されて一日目が終わった訳さ。

というか、ツリーハウスの下で、何やら叫び声が聞こえます。

「イヤアアアア！」って、若い女の声だねえ。ま、私には関係ない話ですわな。と言うか向こうでおやんなさいよ。わざわざ人が寝てるそばでやらなくてもさ？

しかしまあ、正直煩いなあと窓から下を覗くと、5メートルくらいありそうな巨大な熊に追われた女が、悲鳴を上げながら弓をぺしぺし撃っている。

ってかさ、全く効いてないじゃん……ばかなの？死ぬの？

「あーこりゃやられるな」と思ったが、人の死体は見たくないの
で仕方なく10メートル位の高さにある我がツリーハウスから、私は飛び降りた。やだ、格好良くない？

すかさず私は集めておいた投石用の石（野球のボール大）を、二つ三つほど熊に投げるとあっさり即死。舐めるな熊吉がッ！戦闘描写もいりませんな。

だがフードを被った女が、恐怖の表情で私に弓を向けてきた。

まあ獣に追い詰められ、さらに得体のしれない半裸の見知らぬ男

は、自分が為す術が無かった熊を石つころであっさり殺した訳だ。流石に不気味に感じるかあ……。

だがね？命の恩人に弓向けるのか？　なんかムカつくな。ようしならば戦争だ。恨むなよ？

だからまあ一応、力を加減して石を頭に投げて気絶させた。フェミニストだからね？私は。

そして植物のつるでぐるぐる巻きにしぱり、ツリーハウスに連れ帰る。

あ、ちなみにロープは脱がして没収した。戦利品として頂きます。貴重な布製品だもの。文句は受け付けない。

あと弓と矢筒は火にくべた。物騒だからね？リスク管理は大事です。はっはっは

ロープの無い縛られた女は、歳はハイティーン程度かな？　やたら可愛い顔だな。身長は私より5？くらい低いから、多分175？くらいかな？肌の色は褐色だが、顔のパーツは映画レオンの「マチルダ」を、少し大人っぽくした感じです。コケティッシュな感じでまあ可愛い。うんうん。

胸はそう、Dカップくらいあって、柔らかそう。とても美味しそうだ。

不思議なのは髪の色が真っ白で光沢があり、耳が尖ってるのですな。へんなの。あれだ指輪物語のアラウエン的な……エルフか……ああ、只今ここが異世界と確定しました。泣いても良いですか？

まあそうやって、暫く眺めてたら女が気が付き、縛られた事を理解したらバタバタと暴れた。うふふ、そんなんじゃ融けないですよ？池袋の秘密サロンの女王様であるマキ様直伝の亀甲縛りを舐めな
いで欲しいなあ。

だが、煩いなあ……

盗人ただけしい事この上ないな。このエルフ。

煩いからビッシビシと往復ビンタしたらおとなしくなった。

殺す気まんまんな目で睨むから、さらに往復ビンタしてやったら
やつと怯えた目になり、震えながら黙った。

最初からそうしなさいや。面倒くさい。こっちの家に不法侵入したのあなたよ？まずは事情聴取しなきゃならないでしょうよ。だから私は反省もしないし、謝りもしない。

さて、取り敢えず尋問だわ。

お前なもの？どこから来た？ここどこだ？」私は燐とした声で
言ってやりました。

だが返事はなにやらアラビア語みたいな変な言語でよくわからん。

ほほう？しらばっくれて訳わからない言葉で誤魔化しますか？なら仕方ありませんな、私も流石にムツとしました。だから

さわっ…さわさわっ…

「…!? ムー! ムー!」

後ろ手に縛られている彼女の脇腹を、フェザータッチでくすぐる。
ホッホッホッ、逃げられはしませんよ? そもそも藻掻けば藻掻くほどに食い込みますからね? さあ、まだまだ行きますよお嬢さん?

さわさわっ…さわさわさわっ

「ムー! ムー! &

§

ッ!」

ホッホッホッ、何を言ってるか分かりませんか?

さわさわっさわさわっさわさわっさわさわっさわさわっさわさわ
っさわさわっさわさわっさわさわっさわさわっさわさわ
っさわさわっさわさわっさわさわっ…

「ムー! ムムッん…ムムッ…ん…ムーー!」

しよわわわ…

……この女、やってくれましたよ。失禁そして不思議な液体を吹いて失神しました。何ですかこれ。拷問なつもりが、謀らずもサービスしてしまったようです。私の才能が怖いです。

「ナアウ……クテロ……タンスグ……レイ……」

薄ら目を開けて、所謂ア　顔を晒したおバカさんが何か言ってますね？

あー…もしかして、普通に言葉が通じないのでしょうか？あらなら私が悪い……いや、私は彼女にサービスしたのですから反省はいりませんよ！謝罪は断固拒否します。ですが

まあ、異世界ですしね……

取り敢えず身振り手振りでこちらに敵意は無いと説明し、拘束は解きました。ですがまた暴れたらビッシビシいきますからね？

一応、通じたみたいですね？

だから、取り敢えずこの場所から出てけと伝えてみました。何故ならば私は1人で野人ライフを満喫したいので、他人は邪魔なのですよ。

だが、女は断固拒否する。何なのですか？このお嬢さんは。私はしつこく説得するんですが、涙を流してここに居たいというニュアンスのゼスチャーをしてくれます。

こんな綺麗な女がなんなんでしょうね？まあ、お尋ねモノなんですか？まあ、やりとりがだるいので、迷惑かけなきや居てもいいと伝えました。

理解したらしく、抱きついてきて感謝をしめしてきました。

まあ、いいでしょう。言葉がわかりませんし……

取り敢えず、同居人（暫定）になりましたから、お祝い変わりにシカ肉を二人で食べました。

よっぽどお腹が減ってたのでしょうか？多分？はむさぼり食べましたよ？。このスレンダーな体のどこに入るのでしょうか……

取り敢えず名無しではあれですから、自己紹介しようと私は自分が山崎という名前だと、自分を指差し告げましたら、発音しづらいのか「ザキ」と言ってきました。何か即死しそうな響きですが、まあそれでいいでしょう。

対して彼女はイルフィというらしいです。まあエルフっぽい……のですかね？。まあ知りませんが、一応これで最低限の意思の疎通はできますね。

言葉は通じませんから、まあ取り敢えず名前がわかれば不都合は

ないでしょうね。

食後に昼寝だと横になつりましたら、イルフィも寝転んできました。特にする事は無いですからね。

いま私の前にこちらを向いて横になるイルフィですが、胸が怪しくたゆむのを見て正直興奮してきました。先ほどは彼女の嬌声を聞きましたしね。

そもそも彼女服装がいけません。何やら麻みたいな素材のやたら胸元が開いたワンピースなんですよ。それだけしかないのです。

しかもかなりのミニです。きつと狩り等をするのに楽だからでしょうね？ですが興奮するなつてのが無理でしょう。下着もありませんから、実は先ほどから彼女のテラテラ光ったナニかが丸見えなんです。

無意識のうちにエレクトしてたようで、じつと此方を見ていたイルフィがそつと握ってきました。男のこうした外卑た視線はすぐ女性性は気が付くと言いますしね。

恩返しのもりなのでしょうか？ありがとうございます。私に遠慮の二文字はありませんよ？悪しからず。

彼女の半開きの唇に私の舌をねじ込んだら、彼女のスイッチも入ったようですね。二人して貪りあいました。接吻は快樂の入り口ですから、私は手を抜きません。

まさに交尾。言葉が分からないから余計に燃えますね。彼女の鼻息が妙に甘いです。

やっぱりまぐわいはたまりません。

イルフィも貞操観念低そうですし、野人ライフにはもってこいです。

いやあ、いい拾い物しましたね。

せつかなのでもう一回しときましようと思ったのですが……。

えっ？
血？

驚愕からのゝ拾い物ッ（後書き）

改訂なので、毎日こまめに投稿します

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8825y/>

むしゃくしゃしたから森の中から成り上がってみたよ

2011年11月26日20時49分発行